

在日ロシア連邦大使館

特命全権大使

エヴゲーニー・ウラジーミロヴィッチ・アフアナシエフ 閣下

このたび、貴国が今年3月に実施したロシア軍の軍事演習において、核兵器の限定的先制使用を想定していたとの情報に接しました。

70年前、日本は、原子爆弾による広島市と長崎市への攻撃により、多くの国民の尊い命が奪われ、街は無残に破壊されました。こうした悲惨な体験を繰り返すことがないように、核兵器の廃絶を訴えてきました。

たとえ軍事演習であったとしても、核兵器の使用を想定することは、核兵器廃絶を目指して取り組む世界の人々の努力を無駄にする行為であり、核兵器廃絶平和都市宣言をしている帯広市として、厳重に抗議します。

貴国におかれましては、人類を破滅に導く核兵器に自国の安全保障を頼るのではなく、核不拡散条約（NPT）に定められた核軍縮義務を果たすよう強く求めます。

上記抗議内容について、本国へ伝達されるようお願いいたします。

2015年4月16日

帯広市長 米沢 則寿